

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 12-007

PDCA	事務事業名	アイプラザ半田管理運営事業		部課等名	市民経済部 観光課 観光担当		担当	東村	
							内線等	327	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章：第6章 自立した地域経営のまち 節：第1節 行財政運営とサービスの向上 基本施策：1. 行政運営 単位施策：(2) 市民サービスの向上 個別施策：②公共施設でのサービスの向上							
	根拠法令等	—							
	対象・目的	アイプラザ半田は、半田市観光協会が指定管理者となっており、本市の観光拠点施設として多くの観光客に観光情報を発信するとともに、市民の教養・文化の向上、健康増進及びレクリエーションの場として、貸館事業を実施する。							
	目的を達成するための手段・活動内容	民間事業者の柔軟な発想とノウハウを活用した指定管理者制度による、管理・運営を行う。							
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		29年度	30年度	元年度	単位		
		①講堂利用回数		354	282	80	回		
		②小ホール利用回数		517	479	178	回		
		③会議室利用回数		5,938	5,431	2,152	回		
		事業費		55,444	54,477	40,012	千円		
		人件費		952	2,498	3,105	千円		
		総事業費		56,396	56,975	43,117	千円		
		活動単位当たりのコスト		29年度	30年度	元年度	単位		
	①利用1回あたりの管理運営費		8,283	9,201	17,891	円/回			
	成 果	成果指標		29年度	30年度	元年度	単位		
		①全体利用者数	実績値	263,304	287,746	108,811	人		
			目標値	265,000	265,000	145,000			
		②施設使用料金	実績値	1,389	1,558	485	万円		
			目標値	1,450	1,450	815			
③貸室稼働率		実績値	40.1	36.2	28.8	%			
		目標値			37.0				
C 課題の整理		観点別評価	必要性		有効性		効率性		
	①市の関与の妥当性		妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない		
	②市民ニーズ		高い	⑤成果向上の余地	ある				
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ある	⑧受益者負担適正化余地	ない		
	事業の評価・課題	B							
		大規模改修工事の工期延長や令和2年3月4日からの新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に伴う臨時休館により、利用者数等の目標値の達成はできなかったが、半田運河周辺での各種イベントの開催などを通じて、観光案内所や蔵のまち東駐車場の利用者が増加し、令和元年4月～7月の観光立寄者数は、前年度比120.4%となった。							
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進						
半田市の観光の魅力をPRする企画展を開催するなど、観光立寄客数の増加を図る他、観光立寄客へは貸館施設のPR、貸館利用者へは観光PRを行い、相乗効果を活かした施設運営を行っていく。新型コロナウイルス感染症の影響による長期休館や開館後の人数制限などにより、利用客が遠のくことが懸念されるが、感染防止対策を徹底しながらも利用客数の回復を図っていく。									
令和2年度の目標							目標値	単位	
		①全体利用者数(新型コロナウイルスの影響がない場合)					289	千人	
		②使用料(新型コロナウイルスの影響がない場合)					1,560	万円	
	③稼働率(新型コロナウイルスの影響がない場合)					36.5	%		